

漁況予報 いわし

第174号

2012年11~12月漁期
(2012年11月16日発行)

※1 平年：過去5年平均
※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

神奈川県下の主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、9月が9トン、10月（速報値）が0.2トンで、両月とも前年（9月37トン、10月44トン）および平年※1（9月83トン、10月45トン）を大きく下回りました。魚体は、9月には小羽マイワシが主体に漁獲されました。

佐島地区のまき網は、9月に中羽マイワシを主体に、鮮魚としての水揚げがありました。これらはいずれも、今年生まれの0歳魚（2012年級群）と推定されます。

前号でもお知らせしたとおり、本県周辺海域における今年のマイワシ0歳魚の漁況は低調に推移しており、その資源水準は低いと推定されます。このため11、12月も、0歳魚の漁獲はあまり期待できないでしょう。一方、常磐・房総～道東海域の大中型まき網では夏季以降、大羽サイズの1、2歳魚（2010、2011年級群）主体の群が漁獲されており、12月頃にこれらが南下して沖合から来遊することが期待されます。

【カタクチイワシ】

神奈川県下の主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、9月、10月ともに0トン（速報値）で、平年（9月15トン、10月6トン）を大きく下回り、不漁であった前年（9月1.3トン、10月0.02トン）をさらに下回りました。

佐島地区のまき網は、餌イワシとしての漁獲が継続したものの、低調に推移しました。魚体は、被鱗体長※2（以下同）10cm未満の未成魚～小型成魚が主体でした。

本県周辺海域における夏季以降のカタクチイワシ漁獲量は、2000年代後半頃から減少傾向にあります。この原因は現在のところ不明ですが、カタクチイワシ太平洋系群の資源も近年減少傾向にあると推定されており、それとの関連も考えられます。

【シラス】

相模湾のシラス船びき網によるシラス漁獲量（標本船データより推定）は、9月には前年、平年を大きく下回り（前年比、平年比とも0.3倍）、10月には前年、平年並みとなりました（前年比0.9倍、平年比1.2倍）。

漁獲物は9、10月とも、カタクチシラス（カタクチイワシ仔魚）が主体でした。今後は例年どおり、ゆるやかに漁獲が減少して終漁を迎えると考えられます。

= 予報 =

【マイワシ】

今漁期は、2010、2011年生まれの大羽マイワシ（18cm以上）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、8-9月の北部太平洋におけるマイワシの資源状況から、前年をやや下回る約590トンと予測されます。

【カタクチイワシ】

今漁期は、2012年生まれの未成魚（9cm未満）が漁獲の主体となるでしょう。また12月には、小型～大型成魚（9-13cm）も来遊して漁獲されるでしょう。

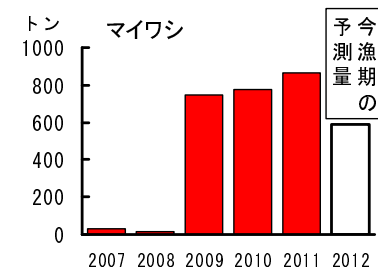
今漁期の漁獲量は、9、10月の県内まき網漁獲状況から、前年並みの約65トンと予測されます。

【シラス】

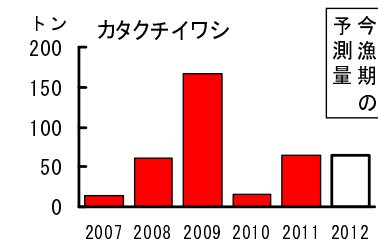
今漁期は、9-10月に発生したカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、10月の標本船シラス漁獲量から、前年並みの約65トンと予測されます。

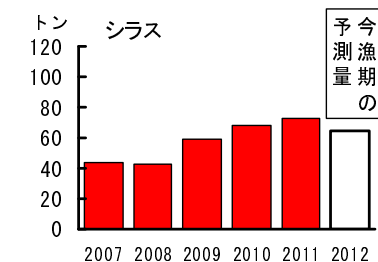
過去5年の11・12月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網



神奈川県水産技術センター資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313